

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 03

学校名・団体名	久慈市立久喜小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	ふるさと久喜の未来を紡ぐ「なみのと学習」

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、活動・研究の意義

本校では、平成9年に漁業の担い手育成を目的とした「海づくり少年団」が結成され、生活科や総合的な学習の時間を活用して地元久喜浜の清掃活動や磯の生物観察の他、定置網体験や名産物である「ウニ」の収穫・殻むきをはじめ「秋鮭」の加工などの特色ある教育活動が展開されている。

これら一連の活動を通して、ふるさと久喜の海の豊かさや素晴らしさを学び、誇りをもって未来の久喜を創りあげる人材を育てていくことが「なみのと学習」である。「なみのと」とは「波の音」の意味であり、久喜地区がいつまでも波の音が響き渡る穏やかで豊かな土地であってほしいという願いが込められている。

しかしながら、平成23年の東日本大震災津波により久喜地区も甚大な被害を受け、2年間にわたり「なみのと学習」も中断せざるを得なかった。これまで当然のように取り組み、続けてきた「なみのと学習」の意義や意味を問い直す機会となった。これまで行うことが当たり前だと思っていた「なみのと学習」は、やはり豊かできれいな海があるからこそ行うことのできる学習であることを再認識し、全校児童が減少する中で、昨年度までの活動の踏襲を基本としながら、少人数でもできる新しい学習形態や内容を工夫し実施してきた。それらの学習を通して、子どもたちの地域の復興を願い、故郷を大切にしようとする豊かな心情を育てている。

2、活動報告

(1) 磯観察・クリーン活動

磯観察とクリーン活動は、「大潮の日」である6月15日に実施した。全校生徒でゴミ拾いをした後、県北広域振興局の方からウニの生態について説明をいただき、「稚ウニ」の放流を行い、学年ごとにテーマを設けて、磯観察を実施した。

2年生はテーマを「海の生き物の口とおしりを探そう」と設定し、磯の生き物（イソギンチャク・カニ・ウニ・ヤドカリ等）をバケツに採取し、地元の漁協の方や県北広域振興局の方から教わりながら、課題解決に向けて観察をしていた。観察結果を低学年は絵日記にまとめ廊下に表示して学習のまとめとした。高学年は観察した中から自分でテーマを決めて、さらに調べ学習をして個人新聞にまとめ、掲示した。

今年度は、「海づくり少年団」として結成当初から実施してきた「クリーン活動」（久喜浜清掃）の活動が認められ「海の日」海事関係功労者国土交通大臣表彰や公益社団法人「小さな親切」運動本部より「小さな親切」実行章、地元の久慈地区生徒指導協議会から善行表彰をされる等、長年に渡る地道な活動が様々な方面から認められ、子どもたちの自信や意欲の向上につながった。



(2) 漁業体験

7月21日(土)に漁業体験を実施した。3・4年生は小型船に乗って「ウニ獲り」、5・6年生は漁船に乗って定置網漁を体験した。「ウニ獲り」では、ウニの獲り方だけでなく、小型船の操舵方法も体験してもらった。その後、殻の剥き方を教えてもらい、実際に獲ってきたウニで、殻剥き作業を体験した。

定置網漁は網を仕掛けている沖合まで漁船で向かい、機械を使っての網起こしを見学後、獲れた魚の選別を行った。保護者の方々に、剥いたウニはウニ汁に、魚は焼き魚に調理してもらい全員で味わった。地元の水の豊かさや漁師としての仕事の大変さを実感する学習であった。



(3) 祭り参加・特産品販売体験

7月29日(日)地元の祭りで、地元の特産品である「ホヤ」の販売を体験した。自分たちでホヤを袋詰めして販売。昨年度製作した「廃油石鯰」も同じブースで販売した。大変好評で、開始30分でどちらも完売。その後、特設舞台で「久喜っ子ソーラン」を披露した。一般の方々と交流する中で特産品や自分たちで製作した石鯰の良さを説明し、地元・久喜の良さや環境を大切にすることをPRすることができた。

(4) 久慈湾口防波堤工事現場見学学習

10月25日(木)3~6年生17名で久慈湾口防波堤の工事現場を見学した。まず、高さ4.5m、重さ64tもあるテトラポッドを製作している現場で、担当の方から種類や製造工程についての説明を受けた。

その後、湾口業務艇「こはく」に乗船し、高さ30m、重さ5000tもあるケーソンを製作している沖合の現場を見学した。テトラポッドや防波堤のお陰で、湾内は波が穏やかなことや、もし津波が来ても波を弱めたり襲来を遅らせたりする役目があることを学んだ。実際に防波堤の内側と外側では波の高さが異なることを体感したり、テトラポッドやケーソン等、想像できないくらい大きさのものを見たりしたことで、これらのもので自分たちの生活が守られていることや震災からの復興が着実に進んでいることを実感した。



(5) 新巻鮭・イクラづくり体験

11月13日(火)5・6年生10名で秋鮭の加工方法の体験学習を実施し、地元の漁家の作業内容や思い・願いについて学びを深めた。地元の漁業組合の方から東日本大震災津波の影響で回遊から戻る鮭の量が減少していることを教えていただき、貴重な魚であることや久喜にとって大事な魚であることを実感できた。

県北振興局の方から作業の手順やコツなどを教えてもらった後、漁協女性部、保護者の方々の力も借りて一人一尾の鮭の内臓を取り出し、塩漬けにする加工を行った。その後、一週間ほど塩に馴染ませ、水洗いをして、さらに一週間昇降口に吊るし、風に当てて身を締めさせた。

冬の保存食として地域で長く食べられてきた新巻鮭の加工を通して、地元で獲れる魚に対する漁師さんの思いを肌で感じる事ができた。



3 おわりに

平成9年に岩手県で開催された「全国豊かな海づくり大会」の開催を機に結成された本校の「海づくり少年団」であるが、児童数の減少によりこれまで実施してきたような活動は難しくなっている。県・市・地元等広範囲に渡り諸機関が一体となって、児童の学習活動を支援する仕組みの組織は県内でも珍しく、とても貴重なので、活動の規模や様式を精選・工夫しながら、ふるさと久喜の水の豊かさや基幹産業の漁業について学ぶという意義を果たすべく「なみのと学習」の充実に努めていきたい。